学術フォーラムの概要について（事後報告）

１　名　称：「ゲノム編集技術のヒト胚等への応用について考える」

２　日本学術会議以外の共同主催団体等：
・後援：なし
・協賛：なし

３　開催日時：令和元年１１月２４日（日）　１３時００分～１７時００分

４　開催場所：日本学術会議講堂

５　開催趣旨：
ゲノム編集技術をヒト受精胚・生殖細胞へ応用することは、様々な問題点があることから、学術的にも、社会的にも容認されていない。一方、昨年 11 月に中国で、ゲノム編集を施された双子が誕生したというニュースが世界を駆け巡り、その実施が後日確認されている。このような状況の下で、ゲノム編集技術の利用、その規制の在り方、そして倫理的問題に関する議論が急速に国内外で行われている。
日本学術会議「科学者委員会ゲノム編集技術に関する分科会」「ゲノム哲学委員会いのちと心を考える分科会」は、ゲノム編集技術のヒト受精胚・生殖細胞への応用に関するフォーラムを共催し、ゲノム編集技術を取り巻く現在の情勢を共有すると共に、様々な立場から将来に向けた議論を行った。

６　参加人数：
講演者等：１２名
その他の参加者：１２１名

７　特記事項：
本学術フォーラムでは科学、医学、法学、社会学、哲学などの多様な分野の講演、ならびにフロアーからの質問を交えた総合討論を行った。人類の財産である「ヒトゲノムの多様性」を維持することが、法規制の理念となり得ること、ヒト初期胚の基礎研究によりヒト胚ゲノム編集の臨床応用対象の疾患が減らせる可能性などが提示された。本ファーラムに参加した一般、学術学会、省庁、報道関係の参加者 63 名のアンケート回答を得た。「科学者委員会ゲノム編集技術に関する分科会」で継続審議中の「ヒト受精卵等に対するゲノム編集に対する法規制」の議論にこれらの成果を反映し、「提言」の発出を進める。